

妻 (1953)

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 96分
初公開日 1953/04/29
公開情報 東宝

【解説】

林芙美子の小説『茶色の眼』を、井手俊郎が脚色し成瀬巳喜男が監督した。「めし」「夫婦」で夫を演じた上原謙が、本作でも主人公の夫を演じている。

中川十一は妻の美穂子と結婚十年目で、すでに倦怠期を迎えていた。課長という肩書だが給料は安く、二階を他人に貸し、妻は内職をしている。妻に魅力を感じられなくなった十一は、同じ会社に勤める未亡人の相良房子に惹かれていた。最初は喫茶店や美術館で会うだけだったが、ある夜ついに二人は関係を結んでしまう。夫の持ち物などからそのことを察した美穂子に詰問され、十一は房子との関係を打ち明けた。十一にまったく興味を示さなかった美穂子が、その日を境に夫の身辺を執拗に調べ始める。

【クレジット】

監督 成瀬巳喜男
製作 藤本真澄
原作 林芙美子
脚本 井手俊郎
撮影 玉井正夫
美術 中古智
編集 大井英史
音楽 斎藤一郎
出演 上原謙 中川十一
高峰三枝子 妻・美穂子
丹阿弥谷津子 相良房子
高杉早苗 桜井節子
中北千枝子 松山栄子
伊豆肇 夫・浩久
新珠三千代 新村良美
三国連太郎 谷村忠
石黒達也 美穂子の叔父
坪内美子 新村妙子
谷晃 鬼頭
本間文子 鬼頭の妻
馬野都留子 栄子の母